令和３年度学校安全総合支援事業

児童生徒の自助・共助意識の醸成を目指して

令和４年１月31日

川根本町教育委員会

Kawanehoncho 川根本町

川根本町

水と森の番人が創る癒しの里

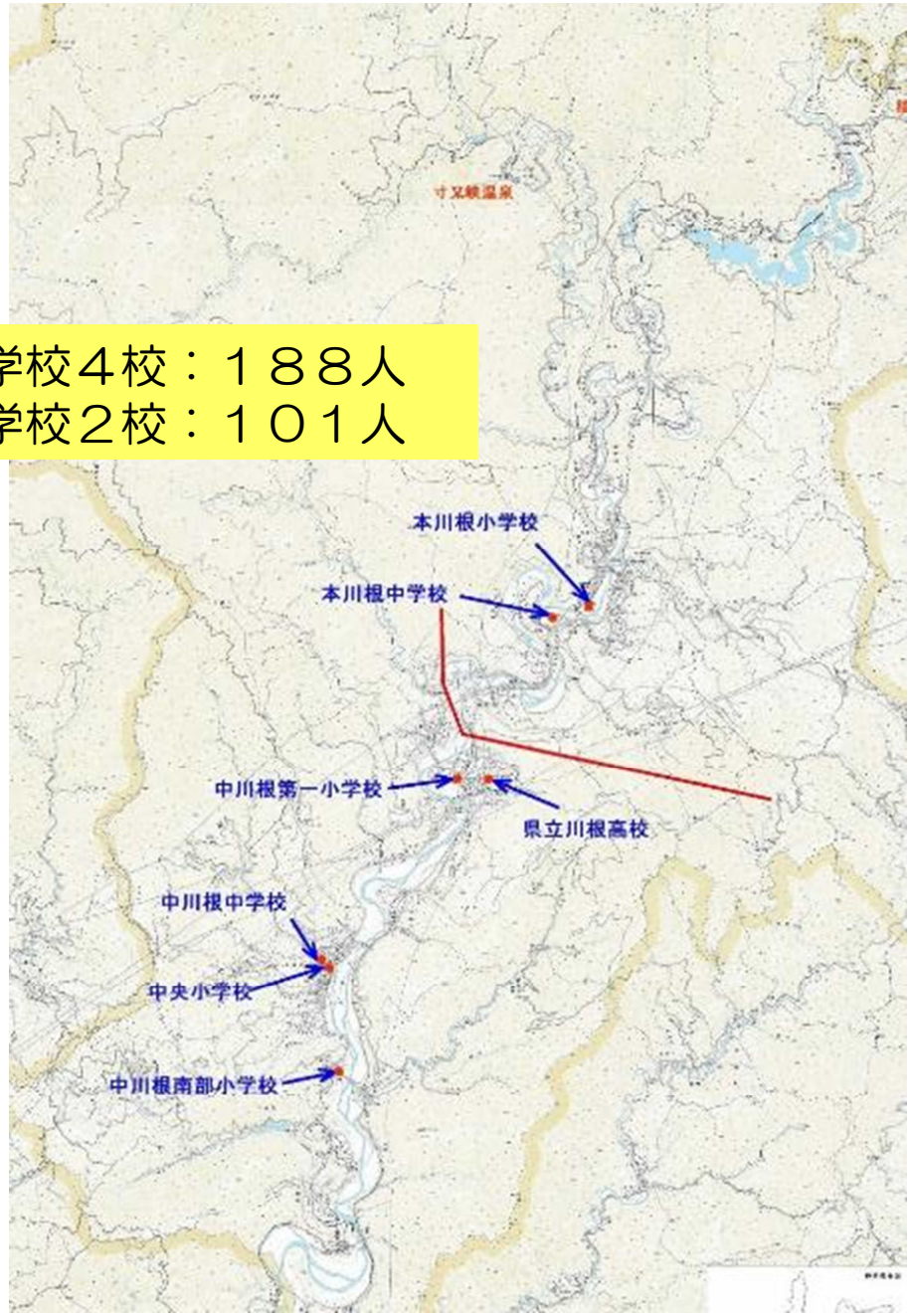
【位置】

静岡県の中央部に位置

東は静岡市、南は島田市、
西は浜松市に隣接

北は長野県との県境

川根本町の紹介



小学校４校：１８８人
中学校２校：１０１人

【町域】
- 大井川沿い　南北約40km、東西約２３km
- 南北に細長い形
- 面積は496.72km^2（県全体の6.4%）
- 約90%は森林

【集落の範囲】南北20km、東西15km
【人口】6，４４５人（令和３年２月現在）

- 町域全域がユネスコエコパークに登録（２０１４年6月）
- 原生自然環境保全地域指定（１９７６年３月／全国５地域、本州唯一）
- 「日本で最も美しい村」連合加盟（２０１５年１０月）

自然災害

中山間地域

・土砂崩れ
・倒木による交通障害

大井川流域に点在する集落

・河川の氾濫による浸水
・支流、沢付近の土砂災害

交通事故

	総数	人身事故	死者	傷者
H28	159	23	0	31
H29	181	25	0	38
H30	171	21	0	34
R１	122	19	1	23
R２	130	19	1	22

令和２年度版川根本町統計要覧より
※「物損事故」を除く

【課題】

● 子供は町の宝物
→ **自助意識の低下**

● 災害等への希薄な意識
→ **防災訓練等の形骸化**

【ストレングス(強み)】

☆ 学びに向かう素直な姿勢
→ **事業効果の拡大**

☆ ICT教育の日常化
→ **事業計画にICTを**

【学校安全総合支援事業の方向性】

1 自助・共助意識の向上

2 ICT危機を活用した事業の推進

学校安全総合支援事業の実施

月	当初計画	新型コロナ	実際の実践
6	推進委員会への参加 実践委員会①	第５波開始の兆し	推進委員会への参加
7	東日本大震災語り部招へい 小中学校での講話	まん延防止等重点措置 ↓ 緊急事態宣言	新型コロナウイルス感染拡大の防止を目的に、教育活動の中止・規模縮小・実施時期変更等の措置を実施 →「学校安全総合支援事業」については、一部事業を中止、一部事業の実施時期変更
8	東日本大震災被災地視察		
9	実践委員会②		
10 11	測量業者による防災教室(FW) 安全MAPの作成	第５波収束の兆し	
12			東日本大震災被災地視察 測量業者による防災教室(FW) 実践委員会①
1	実践委員会③	第６波開始の兆し	東日本大震災語り部招へい 小中学校での講話(ZOOM)

青文字表記は実施時期を変更したもの　　赤文字表記は中止したもの

東日本大震災被災地　福島県双葉郡大熊町　視察研修報告

1　視 察 日　　令和３年12月５日（日）～７日（火）　２泊３日

2　視察場所

(1) linkる大熊　　※前大熊町副町長による講話会場として

(2) 東日本大震災・原子力災害伝承館

(3) 帰還困難区域（中間貯蔵施設、大熊町立熊町小学校）

(4) 磐梯山噴火記念館

(5) 大熊町立学校　※会津若松市内

【前大熊町副町長による講話（@linkる大熊）】

2011.3.11の状況

時刻	被災の状況等
14:46	東北地方太平洋沖地震発生
15:40頃	大津波襲来
16:00過ぎ	国道６号以東（太平洋沿岸部）に避難指示 原子力災害対策特別措置法第10条通報（全交流電源喪失）
16:50頃	原子力災害対策特別措置法第15条通報 （非常用炉心冷却装置注水不能）
19:00	原子力緊急事態宣言
21:50	原発より3km圏内避難、10km以内屋内退避指示
23:00	福島県知事、東電原子力本部長来庁

現場でしか見えなかったこと

- 被災者は新型インフルエンザ患者なみ？
  救急隊員は完全防護。搬送先病院が汚染を心配し、スクリーニング・除染を要求。
  応援医師も被曝を恐れた派遣元から避難させられた
- 訓練は机上の空論
  大規模震災で、通信途絶。進行している現場を確認できない
  オフサイトセンターは翌朝に電源確保するも要員集合できず、線量が上がり１５日福島に避難で
- 情報量が被害を大きく左右する
  SPEEDI、ERSS、PBS情報なし
  寝たきり老人等の搬送できず（双葉病院）
  リアルタイム空間線量の連絡なし→被曝の拡大？

～ 講話に学ぶ安全（防災）教育推進上の課題 ～

① 迅速で正確な情報伝達のための取組に不足はないか？
② 避難所運営の初期段階で配慮すべきことは？
③ 児童生徒の防災意識を高めるためにすべきことは？

【東日本大震災・原子力災害伝承館】

施設について（伝承館ＨＰより）

基本理念１

原子力災害と復興の記録や教訓の「未来への継承・世界との共有」

基本理念２

原子力災害の経験や教訓を生かす「防災・減災」

基本理念３

福島に心を寄せる人々や団体と連携し、地域コミュニティや文化・伝統の再生、復興を担う人材の育成等による「復興の加速化への寄与」

～ 原子力災害伝承館に学ぶ安全（防災）教育推進上の課題 ～

① 川根本町における「不測の事態」とは？

② 大災害が発生した時の、児童生徒・教職員の初期行動とは？

③ 風評被害を防ぐには？

【帰還困難区域（中間貯蔵施設、大熊町立熊町小学校）】

校舎内部は非公開

～ 中間貯蔵施設視察に学ぶ安全
（防災）教育推進上の課題 ～

① 多量の土砂による災害が発生した時の児童生徒の避難は？

② 他市町や他県が大災害に見舞われたとき、児童生徒に考えさせることは？

【磐梯山噴火記念館 】

磐梯山噴火記念館の佐藤館長の講話から①

□災害を知る上で重要なことは、現場を「見て」「知る」ことである。
□減災の上で必要なことは、「過去の災害を継承する」ことである。
□ハザードマップは、あるだけでは意味がない。マップの見方を説明しない限り、自然災害は人災である。

磐梯山噴火記念館の佐藤館長の講話から②

＜実効性の高い防災教育＞

1) 過去の災害に詳しい研究者を招へいする。
2) 研究者と教員で副読本を作成し、授業を行う。
3) 自然災害が発生した現場を子供に見学させ、地形・地質を学ばせる。
4) 学んだことを文化祭等で発表する。
5) 地域の防災力がアップする。

～ 磐梯山噴火記念館に学ぶ安全（防災）教育推進上の課題 ～

① 児童生徒が理解できるハザードマップとは？
② 川根本町及び周辺で発生した自然災害や困難な生活の状況を継承していくためには？
③ その時の状況に応じた身の守り方を考えさせる手だては？
④ 実効性の高い防災教育を推進するためにできることは？

防災教室（フィールドワーク）　実施報告

1　実 施 日　　令和３年12月７日（月）

2　実施場所　　川根本町立中央小学校区

3　参 加 者　　中川根第一小学校、中央小学校、中川根南部小学校、
本川根小学校の５、６年生　　計67名

4　プログラム

(1) 仮想空間による災害疑似体験防災講座

(2) フィールドワーク

(3) 学校ごとの危険個所の調査とマッピング→R4年度以降

測量業者による防災教室(フィールドワーク)

【STEP１】
仮想空間による災害疑似体験防災講座

□ 「災害」「自然災害」とは

□ 動画「集中豪雨」の視聴

□ ３D仮想空間による疑似体験活動
「集中豪雨による被害が起きた後の町」

フィールドワーク実施前に、参加児童全員を対象とした講義を実施した。

測量業者による防災教室(フィールドワーク)

【STEP２】
フィールドワーク（現地調査）

□ 「自然災害」「交通事故」「人工物」などの視点により危険個所を指摘

□ 業者が作成したマップとワークシートを使用

各小学校を１グループとし、中央小学校の学区をモデルにフィールドワークを実施した。

測量業者による防災教室(フィールドワーク)

R3.12.20

第一小：1 班　実習ルート②

学校周辺　危険箇所チェックシート

シールの色の見方

- ：土砂くずれ・落石が起きそう
- ：物が倒れたり壊れそう（木・電柱（電線）・信号・自動販売機　など）
- ：川やそっこうの水が増えそう・あふれそう・建物内に水が入ってきそう
- ：交通の危険（歩道の横にそっこうがある・歩道がせまい・信号がない・交差点で車が確認しにくい・道路に段差がある　など）

記号	シール	予想される危険
A		
B		
C		
D		
E		
F		

土砂崩れ・落石の危険

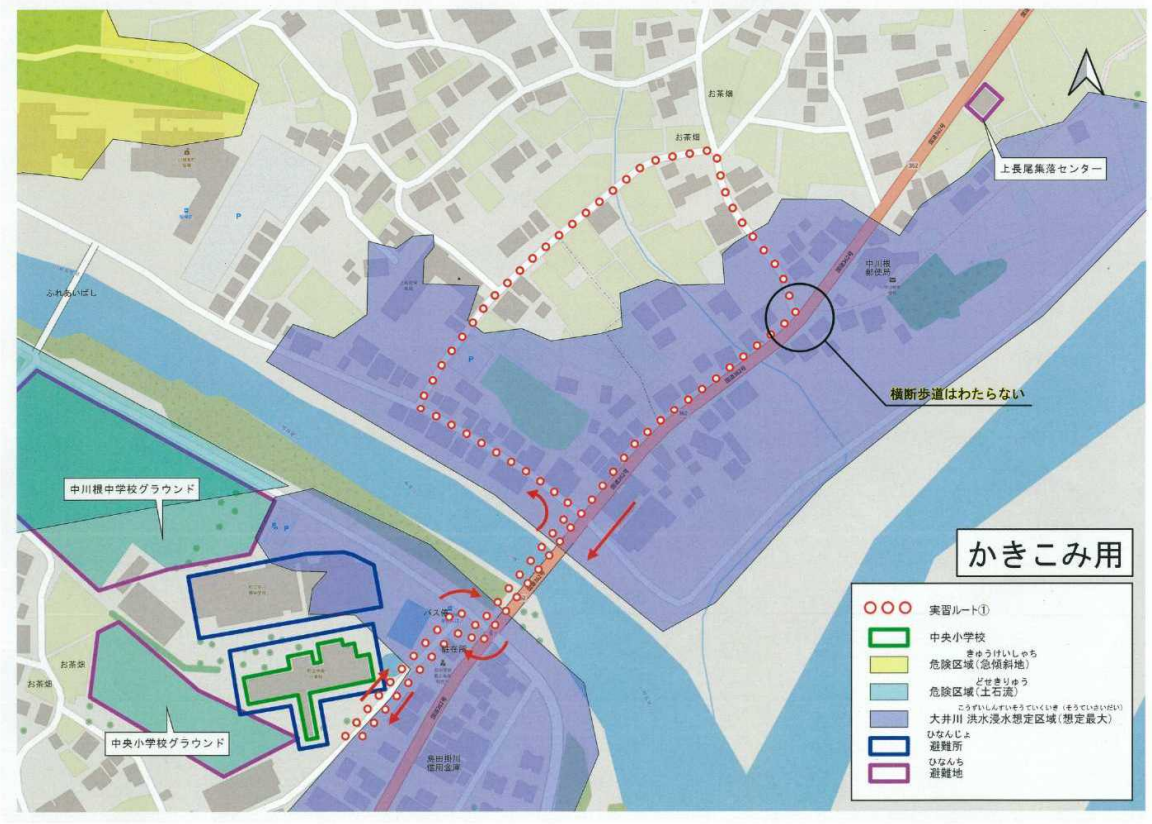
人工物の倒壊等の危険

洪水・浸水の危険

交通上の危険

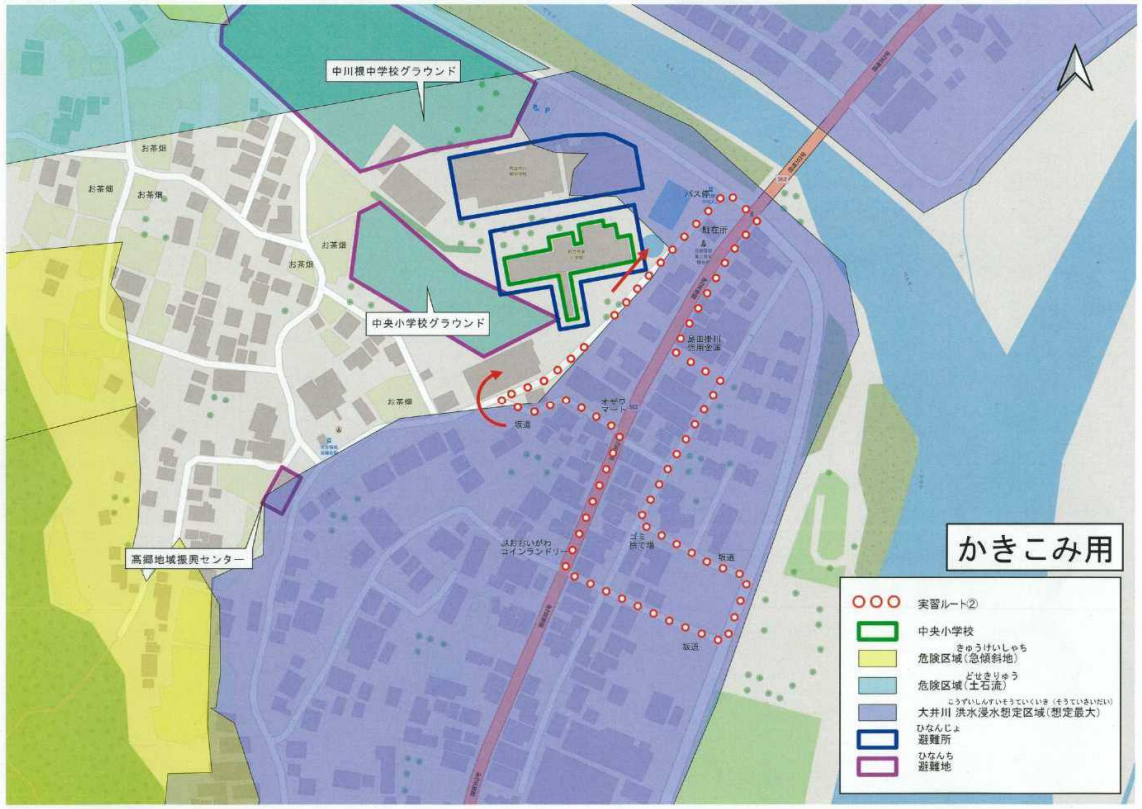
フィールドワークの効率を高めるため、凡例により４つの視点から、危険個所を指摘できるようにした。

測量業者による防災教室(フィールドワーク)

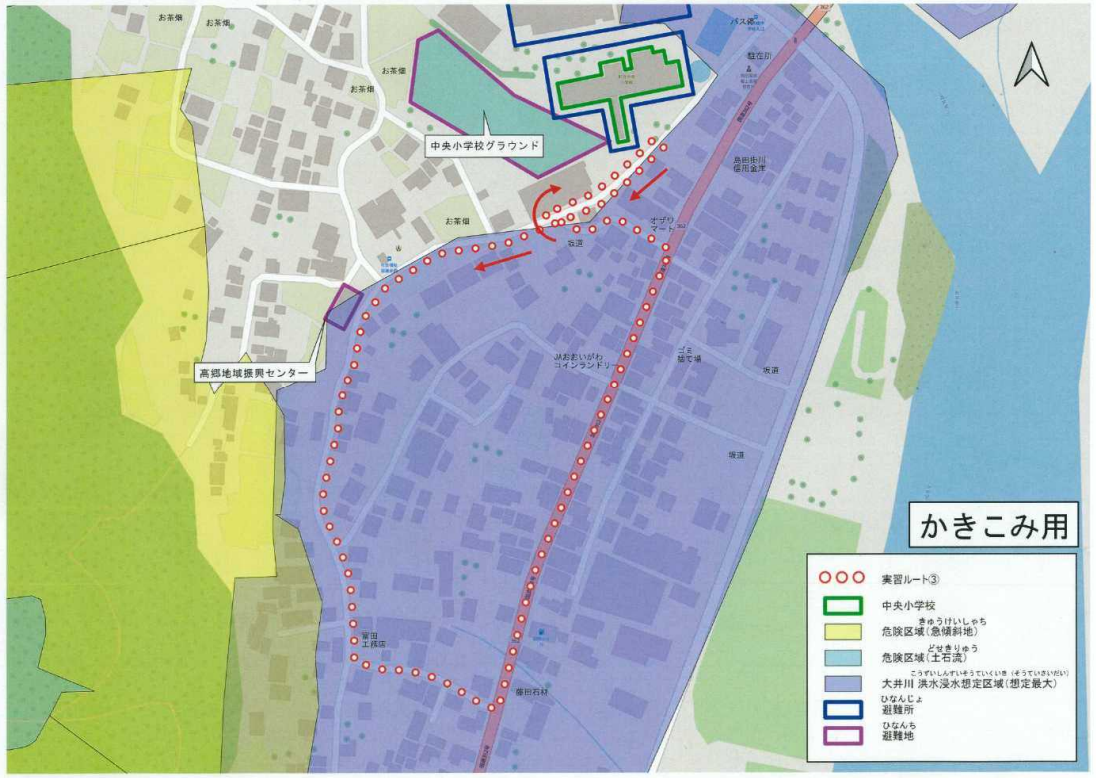


＜実習ルート①＞
橋を渡り主要道から側道へ入る。
狭い路肩と細い路地が続く。

＜実習ルート②＞
旧市街から大井川付近へ。交通量が多く川の様子も観察できる。

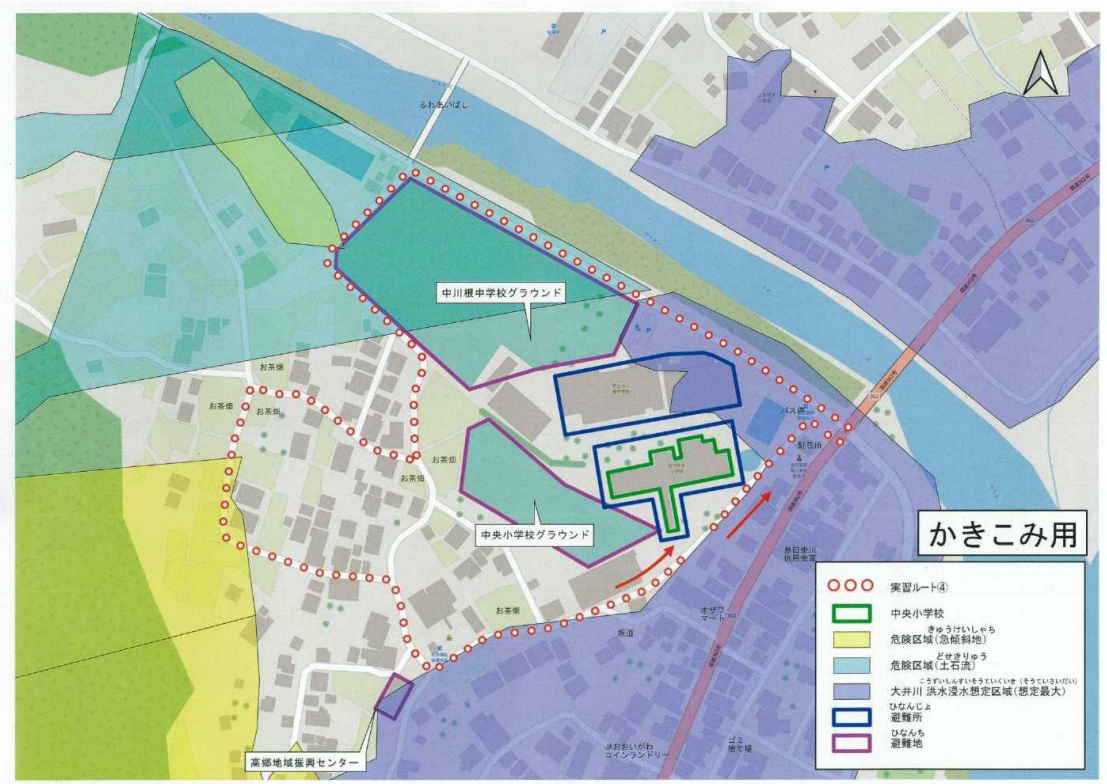


測量業者による防災教室(フィールドワーク)



＜実習ルート③＞
学校前の道路から旧市街地へ。狭い道を町営バスが運行する。

＜実習ルート④＞
学校の裏山を中心としたコース。
起伏が大きく見通しが悪い。



測量業者による防災教室(フィールドワーク)

【STEP３】
現地調査の共有

□ グループごとに調査結果を整理

□ ワークシートとタブレットで撮影した写真を突合

　およそ20分のフィールドワークで児童はたくさんの危険個所を指摘することができた。

測量業者による防災教室(フィールドワーク)

意外に危険個所が多く、川が氾濫する可能性もあってびっくりしました。次は自分の地域を登下校の時に確認したいと思います。

（中川根第一小６年男子）

地震が起こると、車が転倒してしまうほどの恐ろしい思いをすることがわかりました。電柱や木が倒れるなど、身の周りの危険なものもわかりました。

（中央小５年男子）

中央小の周りにも、危険な場所はたくさんありました。自分の家の周りにも危ない所があるのでもし、災害が起きたときに安全に避難できるよう、日頃から確認したいと思いました。

（中川根第一小６年女子）

今までは危険なんて何にも感じていなかったけれど、危険な所がありすぎて、もし川根本町に地震や土砂崩れが起きたら大変だと思いました。これからは気をつけて歩いていきます。

（中央小５年男子）

測量業者による防災教室(フィールドワーク)

今回の体験で思ったことは、身の周りには危険な所がたくさんあることです。今度は自分の地域で見つけてみて、日頃から防災の準備をしておきたいです。

（中川根南部小６年女子）

危険な場所の体験をして、少しずつですが「危ないなぁ」と思うことが増えてきました。この学習が、私の生活の中で意識しなければいけない点を変えてくれました。

（本川根小５年女子）

こういう山の中だからから起きる土砂崩れや、古い建物の倒壊など、状況や環境のことを考えてこれから過ごしていかなくてはいけないと感じました。

（中川根南部小５年男子）

実際に町を歩いたり、ゲームのような世界で災害が起きた町の様子を見たりすることができてよかったと思います。仮想世界でも危険な場所が分かったので良い経験になりました。

（本川根小５年女子）

東日本大震災の語り部による講話　実施報告

1　実 施 日　　令和４年１月21日（金）

2　実施場所　　第１部　町内４小学校と東日本大震災伝承館
第２部　町内２中学校と東日本大震災伝承館
※どちらもオンラインで接続開催

3　参 加 者　　中川根第一小学校、中央小学校、中川根南部小学校、
本川根小学校の4、５、６年生　　計103名
中川根中学校、本川根中学校の全生徒　　計93名

4　プログラム

(1) 東日本大震災の語り部による講話

(2) 質疑応答

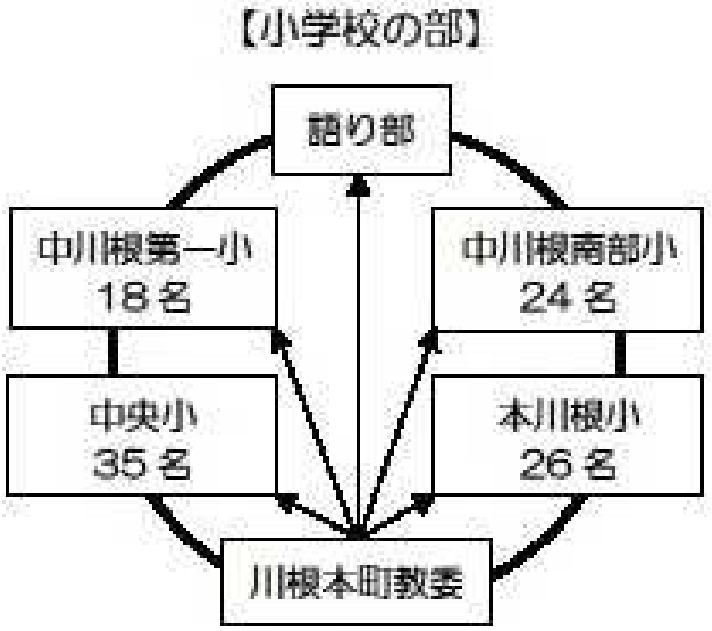
東日本大震災の語り部による講話

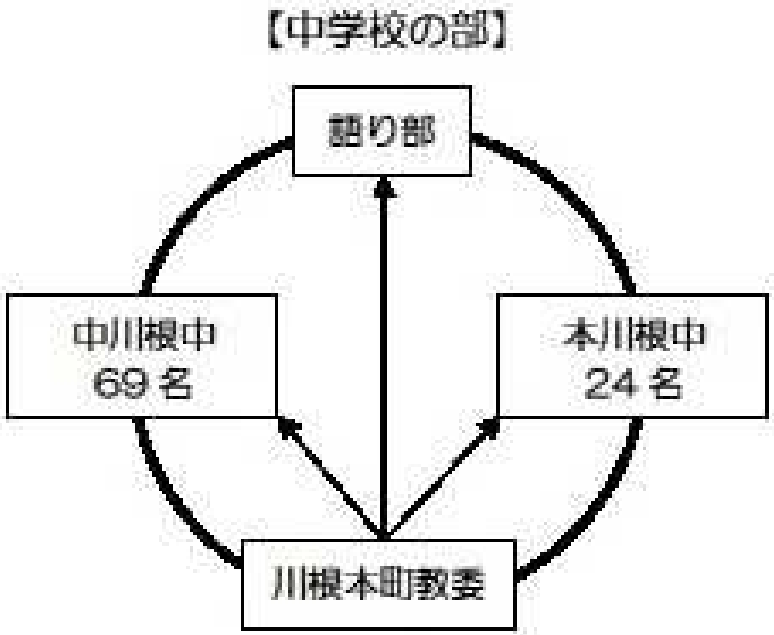
＜講師＞
東日本大震災・原子力災害伝承館のアテンダントを務める元公立学校の教頭。講師自身、2011.3.11の東日本大震災により、大きな被害を受けた被災者の一人。

＜内容＞
- □ 発災時の状況
- □ 発災後の避難生活における不安や苦労
- □ 発災前と発災後の生活の変化
- □ 被災地域からのメッセージ
- □ 自助・共助の意識を高める必要性

＜オンラインによる講話＞

川根本町教育委員会がホストとなり、各会場をZOOM招待して実施。伝承館の語り部がオンラインで講話を行うのは初めてであった。





東日本大震災の語り部による講話

私は、東日本大震災がおこったときは、まだ1才だったので覚えていないけど母から少しだけ聞いたことがありこわいなと思っていました。
今日の話を聞いて津波や地震はもっとすごくこわいものだということを知りました。
また津波の影響で原子力発電所がこわれて、放射線がでて、入れない所があることを知ってびっくりしました。
もし私が被害にあった人がいたら差別しないで仲よくしてあげます。
静岡県にも東海、大地震といった静岡県を中心とした大きな地震がいつきてもおかしくないと言われています。もし地震がおこったときにすぐに行動できるように地域や学校の防災訓練にもっと真剣に取りくみたいです。
そして地震がきたら下級生に教えてあげたりすぐに行動できるようになりたいです。

中央小学校６年女子

中川根第一小学校６年女子

私は、東日本大震災の話をきいて、小学校のグラウンドにひびがはいったときいてびっくりしました。他にもまだ双葉町の人が家に帰れていないときいて、びっくりしました。静岡県もいつ大きな地震がくるかわからないので、地域の防災訓練に出ているけどもっとちゃんときいたり、見たり、備えをして少しでも被害を減らしたいと思いました。あと、東北の人に会ったら差別しないで地震の話を聞きたいなと思いました。

東日本大震災の語り部による講話

東日本大震災（しんさい）の語り部さんによる講話（お話）を聞いて

学校名	中川根南部小学校
学年	5年　氏名

【感想】

わたしは、地震のこわさを教えてもらい、地域のひなん訓練を一回一回、真剣にやりたいと思います。そして、災害がいつおこるのかは、わからないので、いつでも、ひなんできるように、季節でふくなどの入れ替えをしたいと、思いました。

中川根南部小学校５年女子

東日本大震災（しんさい）の語り部さんによる講話（お話）を聞いて

学校名	本川根小学校		
学年	6年	氏名	

【感想】

先日は、東日本大震災について語って下さりありがとうございました。悲しいくてつらい経験をしたことを聞き、自分も大きな地震が起きたらあわてると思うけど自分の命を守ろうと思う気持ちが強くなりました。そのために判断力をつけて動けるようにしたいです。

中川根南部小学校６年男子

東日本大震災の語り部による講話

東日本大震災　語り部による講話を聞いて・・・

TVの特番を観るよりも、当時のくわしいおはなしを被災者の方から直接聞くことで、より震災のおそろしさ、言葉の重みを感じました。刀倉町の様子を聞いた後、私たちの住む川根本町との共通点がいくつかあり、より被災者の気持ちを自分事として捉えることができました。実際刀倉町の方々が見たもの、感じたものを私がすべて分り理解することはできないけれど、想像することは必要だと思いました。当時、私よりも幼かった子ども達がどれだけ怖い思いをしたのかと考えてみると、心が痛みました。

震災が起きたとき、今まで私たちの最善の行動がとれるようにハザードマップや防災情報の確認はおこたらないように、そして常に最悪を想定することも大切だと思いました。もうすぐ11年がたちますが、忘れんでいる人がいることを忘れないようにしたいです。

（ 3 ）年（ 7 ）番　氏名　（　　）

中川根中学校３年女子

東日本大震災　語り部による講話を聞いて・・・

僕にとっては、「東日本大震災」はとても幼かった頃の話で、当時のことはあまり覚えていません。ですが、今回の話を聞いて、当時はどのような事が起きていたのか、知ることができました。実際、静岡県も、いつか大きな地震が来るかもしれないと言われているので、しっかり訓練をして、どんな時でも冷静さを少しでも保てるようにしたいです。川根本町は山に囲まれているので津波の危険は少ないですが、それでも、万が一の時のことも考え、いつ地震や津波が来ても大丈夫なように準備をしておきたいと思いました。

（ 3 ）年（ 11 ）番　氏名　（　　）

中川根中学校３年男子

東日本大震災の語り部による講話

東日本大震災（しんさい）の語り部さんによる講話（お話）を聞いて

学校名	本川根中学校		
学年	1年	氏名	

【感想】

今回、リモートで東日本大震災のお話をきかせていただいて、私は、私が想像しただけでも怖くて苦しかったのに、実際被害にあった多くの人は、もっと辛くて恐怖がいつもあったのかと考えたら怖いし、私が調べてみた映像や映画よりもくわしく思いなどがお話をきいてもっと分かったので勉強になりました。また、これからおこるかもしれない地震に備えたいなと思いました。

本川根中学校１年女子

東日本大震災（しんさい）の語り部さんによる講話（お話）を聞いて

学校名	川根本町立本川根中学校		
学年	3年	氏名	

【感想】

僕はまだ、大きな地震、津波、住む場所がないことなどは体験したことがありません。先生のお話で、当時の様子や原子力発電所の事故について知ることができました。住む場所がないことや、自由を制限されることを想像すると、被害町の人たちや震災にあった人たちは、とても苦しかったのだと感じました。今回は、講話をしてくださり、ありがとうございました。

本川根中学校３年男子

【児童生徒の防災視点の向上】

小学生を対象としたフィールドワークにおいては、測量業者の専門的知見により３Ｄを駆使したバーチャル学習が直後の探究活動につながった。拠点校の学区にある危険を伴う地点を４グループで探索した際は、河川の状況や道路の段差、見通しの悪さなど、これまでとは異なる視点で危険個所を指摘できるようになった。

【児童生徒の防災意識の向上】

東日本大震災の被災地からオンラインにより語り部を招へいした際には、発災直後の状況や、福島第一原発の事故により未だに帰還できない人たちの生活を聴き、災害を身近な自分事として捉えることができた。自宅に戻り、保護者とともに災害への備えについて話し合う生徒も見られるなど、自助意識の向上を認めることができた。

【教職員の防災教育に対する意識の醸成】

各校１名の教員が、東日本大震災の被災地への視察研修に参加した。大熊町の元副町長による講話、帰還困難区域の視察等から、2011.3.11のまま時が止まってしまった被災地の現状に言葉を失った。これらの体験を各校において伝達し、災害について児童生徒に改めて考えさせるための教育活動の実施に向けた機運を醸成した。

事業の成果

成果指標	事業実施前	事業実施後
危機管理マニュアルの見直しや内容の周知などを行い、日頃の安全教育・管理や危機発生時における各教職員の役割について、共通理解を図っている学校の割合	66.7％ （４校／６校）	100％ （６校／６校）
学校安全を推進するための中核となる教員（管理職以外）、を校務分掌に位置付けている学校の割合	33.3％ （２校／６校）	100％ （６校／６校）
学校安全に関する校内会議や研修等を実施している学校の割合	66.7％ （４校／６校）	100％ （６校／６校）
東日本大震災の被災地から派遣された講師（語り部）による講話を聴いて、自助の意識を高めた児童生徒の割合（児童は小学４、５、６年）	―	92.2％
東日本大震災の被災地（福島県双葉郡大熊町）の視察結果について校内研修を実施した学校の割合	―	100％

【福島県双葉郡大熊町及び
双葉町への小学生派遣】

学校安全総合支援事業において実施した視察研修ルートをベースに、福島県２町の協力を得て、被災地における小学５、６年生の学習や、被災地の児童との交流活動を計画している。交流を深め、被災地の自治体が求める「福島県の応援団」となるよう事業を推進したい。

【業者が新たに開発する
防災教育プログラムの実施】

今回の事業で業務を委託した測量業者では、静岡県が推進する点群データを活用し、地域の状況を３Ｄ、４Ｄに再構築して防災教育に資する教材を開発している。令和４年度での実践は困難であるものの、令和５年度以降の教育活動において活用できないか検討中である。